

本庄市のプロフィール

沿革

明治22年町村制の施行により、本庄地区では、本庄宿が「児玉郡本庄町」となり、児玉地区でも2町（児玉町・八幡山町）が合併し「児玉郡児玉町」が誕生しました。

昭和の大合併により、昭和29年7月1日、本庄町と周辺4村（藤田村・仁手村・旭村・北泉村）が「本庄市」となり、昭和30年3月20日には、児玉町と周辺3村（金屋村・秋平村・本泉村）が合

併し「児玉郡児玉町」の範囲が拡大しました。その後、昭和32年7月両市町の間にある共和村が分村して、それぞれへ編入されました。

それから約50年を経て、全国で平成の大合併が進められ、現在の本庄市は、平成18年1月10日に本庄市と児玉町が合併し誕生しました。



人口・世帯

(令和5年4月1日現在)



男

38,727人



総人口

77,473人



女

38,746人



世帯

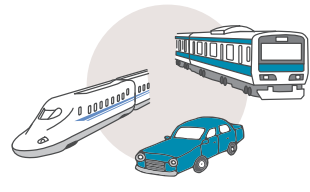
36,043世帯

市章



本庄市の本を「モチーフ」に、赤は地域の活力と市民の情熱を、青は利根川などの豊かな水を、緑は恵みをもたらす農地や山林を象徴し、自然と調和しながら躍進する本庄市を表しています。

交通



鉄道は、JR高崎線・八高線・上越新幹線・北陸新幹線の3路線3駅を擁し、本庄早稻田駅から東京駅は約50分で結ばれています。

また、道路は、東京と上信越方面を結ぶ関越自動車道の本庄児玉インターチェンジと、国道17号・254号・462号などの主要道が縦横に走っており、交通の要衝となっています。



高崎線



八高線

本庄市ガイド／まちの情報ツール



東京2020大会のホストタウン本庄市はトルコ共和国との交流を続けています

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に参加するパラリンピアンとの交流をきっかけに、共生社会の実現に向けてユニバーサルデザインの街づくり、心のバリアフリーの取り組みを進めています。ご縁があってホストタウン交流を行っているトルコ共和国との関係や、本庄市が応援している障害者スポーツの普及については、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会終了後もレガシーとして継続していきます。



Honjo City